

# 令和5年度・内航タンカー船員実態調査報告書

令和6年4月18日

全国内航タンカー海運組合

船員対策委員会

— 目 次 —

はじめに	…	1
1. 回答状況	…	2
2. 年齢構成（乗・下船中の分類）	…	4
3. 年齢別船員数及び割合の推移（10年間）	…	5
4. 総トン数・船種別平均年齢（乗船中船員）	…	6
5. 職種別平均年齢（乗・下船船員の合計）	…	9
6. 入社歴及び前職	…	10
7. 採用・退職関係	…	13
8. 海技免状保有状況	…	16
9. 船舶料理士保有状況	…	16
10. STCW基本訓練受講状況・予定	…	16
11. 船員不足の考察	…	17
12. 船員対策委員会からの提言	…	18

はじめに

全国内航タンカー海運組合では、船員の高齢化に伴い、若年船員の確保、船員不足への対応、関係者の理解促進に役立てることを目的に、毎年**10月1日現在**における内航タンカーに乗船中の船員及び下船中船員の年齢構成、採用・退職状況等を調査しています。(平成17年に調査開始)

令和5年度も、運送事業者(オペレーター)を経由して船主(オーナー)に調査票の提出ご協力をお願いしました。今年度も回収率を上げるべく、対象事業者船員担当者様の協力を得て提出をお願いし、**回収率は73.7%**(対象1,042隻の内、768隻の回答)と、例年並みの回収率が確保出来ました。

回収率の内訳をみると、船型では**200G/T未満の小型船(回収率47.9%)**、船種では**特タン船(回収率66.2%)**、**ガス船(回収率67.5%)**の回収率が**低い**という、例年同様の傾向となり、回収率を上げていくことは課題ではありますが、概ね実態が反映される水準は保たれたものと思われま

す。今回の調査から推計される船員総数は、**9,303名(前年度9,245名)**で前年比**58名増**となりました。これは、**対象隻数(1,042隻)**、**予備員率(1.40)**に全く変化が無かったことを考えると、**新卒者の採用増(276名→300名)**が若干反映されたとは言え、昨年とほぼ同水準で船員需給が推移したものと推測されます。しかしながら、**採用の難しさ**、**定着性の悪さ**、**他船種・他業種への流出**は、依然課題として残されたままとなっており、船員不足につながるこれらの要因は、一つ一つ排除する努力が必要ではないかと思われま

す。また、今回の調査による船員の**平均年齢は45.4才(前年度45.6才)**で、若干の若返りとなりました。これは、近年における各社の新卒者の採用増に伴い**若年世代が増加(30才未満割合10年で5.9%増加)**したと、**高齢世代割合が減少(50歳以上割合10年で11.4%減少)**したことが一因ですが、この傾向とは別に、**若年層の早期退職者の増加**や**70歳以上の高齢船員への依存割合が高まっている**ことへも早急に対応が望まれます。

また、このほかにも本報告書では、組合員各社からの貴重な実態を集計した上で、数多くの統計的データとしてまとめておりますので、是非、各社・グループの船員対策等にご活用下さい。

長年にわたり内航タンカー業界を支えて来た団塊世代の船員が退職し、中堅世代を他業種から採用することが難しい現状においては、若手船員を採用し育成していかなければならないことは明白であります。このためには、令和4年4月から実施された「内航船員の働き方改革」に関連する法改正に対して、組合員各社がコンプライアンスを前提にした取り組みが可能となるよう、業界団体としてサポートを行い、さらには、船員の労働環境改善に向けた取り組みについて、荷主や行政への理解、協力につなげて行くことが最重要課題と思っております。

最後になりますが、本調査にご協力をいただきました、運送事業者、船主の船員担当者の方々に改めて厚くお礼を申し上げますと共に、今後とも協力下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

全国内航タンカー海運組合  
船員対策委員会  
委員長 内藤 吉起

## 1. 回答状況

(1)対象隻数 : 1,042隻

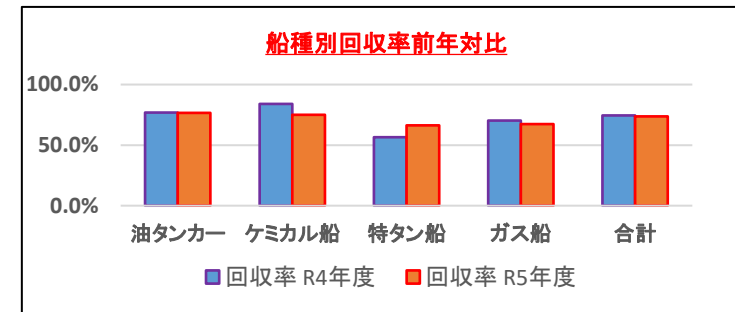
(2)回答隻数 : 768隻 (回収率:73.7%)

※調査票の回収方法は、内航総連合会の「構造改善対策賦課金」の徴収対象船舶リストにより、運送事業者へ船主分の調査票の配布回収を依頼し実施。

※回収率73.8%の内訳は下段表のとおり。(本年度は、特タン船、ガス船、小型船の事業者からの提出割合が低い)

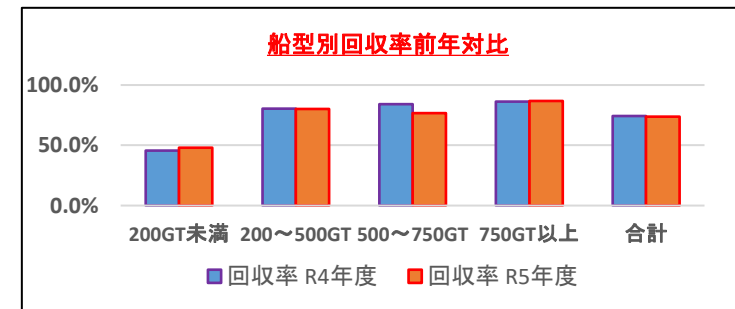
## (3)船種別回答内訳

	調査対象隻数		回答隻数		回収率	
	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
油タンカー	575	574	442	440	76.9%	76.7%
ケミカル船	189	188	159	141	84.1%	75.0%
特タン船	154	157	87	104	56.5%	66.2%
ガス船	124	123	87	83	70.2%	67.5%
合計	1,042	1,042	775	768	74.4%	73.7%



## (4)船型別回答内訳

	調査対象隻数		回答隻数		回収率	
	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
200GT未満	246	242	112	116	45.5%	47.9%
200～500GT	348	352	280	282	80.5%	80.1%
500～750GT	184	184	155	141	84.2%	76.6%
750GT以上	264	264	228	229	86.4%	86.7%
合計	1,042	1,042	775	768	74.4%	73.7%



## (5)回答船員数

( )は前年度船員数を示す。

合計(乗船中・下船中)7,308名(7,392名) ①乗船中の船員数5,238名(5,284名) ②下船中の船員数2,070名(2,108名)

## (6)内航タンカー船員の総計(推計)

上記船員数に各船種、船型別の回収率から算出した推計船員数と予備員率を乗じた内航タンカー全船での船員数は以下の通り推計される。

合計(乗船中・下船中)9,303名(9,245名) ①乗船中の船員数6,668名(6,609名) ②下船中の船員数2,635名(2,636名)

※ 推計船員数は58名増加しているが、予備員率(1.40→1.40)も含め、ほぼ昨年並みの船員数が維持出来たと推計。

## ◎ 回答状況(詳細)

乗船中船員の集計	船種	船型区分 G/T	対象隻数 ①	回答隻数 ②	回収率 ③(②/①)	回答船員数 ④	平均乗員数 ④/②	推計船員数 ⑤(④/③)
	乗船中船員の集計	油タンカー	200未満	191	96	50.3%	326	3.4
～500未満			124	108	87.1%	542	5.0	622
～750未満			55	49	89.1%	337	6.9	378
～1000未満			48	43	89.6%	379	8.8	423
～1600未満			3	2	66.7%	11	5.5	17
～3000未満			27	21	77.8%	209	10.0	269
3000以上			126	121	96.0%	1,427	11.8	1,486
小計			574	440	76.7%	3,231	7.3	3,843
ケミカル船		200未満	4	1	25.0%	4	4.0	16
		～500未満	139	104	74.8%	561	5.4	750
		～750未満	41	34	82.9%	214	6.3	258
		～1000未満	0	0	0.0%	0	0.0	0
		～1600未満	4	2	50.0%	20	10.0	40
		～3000未満	0	0	0.0%	0	0.0	0
		3000以上	0	0	0.0%	0	0.0	0
小計			188	141	75.0%	799	5.7	1,064
特ダ船		200未満	47	19	40.4%	76	4.0	188
		～500未満	80	61	76.3%	290	4.8	380
		～750未満	26	20	76.9%	134	6.7	174
		～1000未満	3	3	100.0%	25	8.3	25
		～1600未満	1	1	100.0%	10	10.0	10
	～3000未満	0	0	0.0%	0	0.0	0	
	3000以上	0	0	0.0%	0	0.0	0	
小計		157	104	66.2%	535	5.1	778	
ガス船	200未満	0	0	0.0%	0	0.0	0	
	～500未満	9	9	100.0%	49	5.4	49	
	～750未満	62	38	61.3%	249	6.6	406	
	～1000未満	29	17	58.6%	154	9.1	263	
	～1600未満	11	8	72.7%	85	10.6	117	
	～3000未満	6	6	100.0%	73	12.2	73	
	3000以上	6	5	83.3%	63	12.6	76	
小計		123	83	67.5%	673	8.1	983	
合計	200未満	242	116	47.9%	406	3.5	853	
	～500未満	352	282	80.1%	1,442	5.1	1,801	
	～750未満	184	141	76.6%	934	6.6	1,217	
	～1000未満	80	63	78.8%	558	8.9	711	
	～1600未満	19	13	68.4%	126	9.7	183	
	～3000未満	33	27	81.8%	282	10.4	342	
	3000以上	132	126	95.5%	1,490	11.8	1,562	
合計		1,042	768	73.7%	5,238	6.8	6,668	
下船中船員の集計						回答船員数 ⑥	予備員率 ⑦(⑥/④+1)	推計予備員数 ⑧(⑤×⑦-⑤)
						2,070	1.40	2,635
総合計 (⑤+⑧)				回答数計	7,308	推計船員数	9,303	

## 2. 年齢構成(乗・下船中の分類)

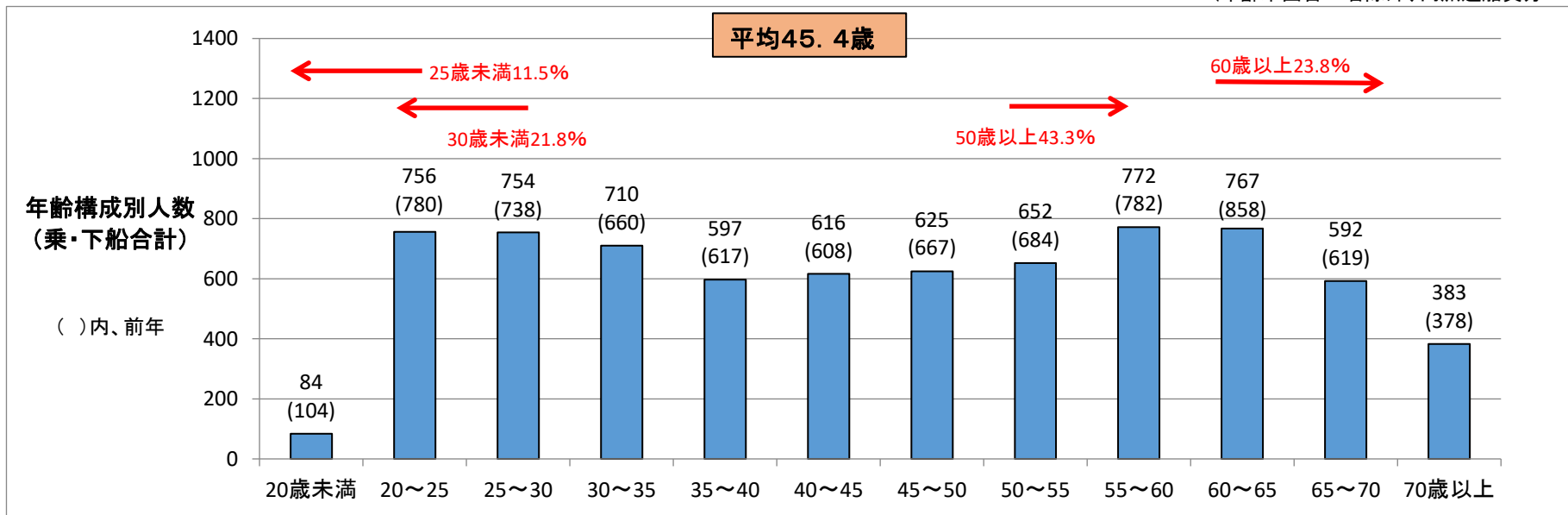
## (1) 年齢区分別人数

		20歳未満	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～55	55～60	60～65	65～70	70歳以上	計
乗船中	人数	58	546	546	505	429	453	478	465	565	542	410	241	5,238
	年齢計	1,089	12,096	14,772	16,149	15,918	18,978	22,473	24,213	32,230	33,578	27,434	17,524	236,454
	平均年齢	18.8	22.2	27.1	32.0	37.1	41.9	47.0	52.1	57.0	62.0	66.9	72.7	45.1
	比率	1.1%	10.4%	10.4%	9.6%	8.2%	8.6%	9.1%	8.9%	10.8%	10.3%	7.8%	4.6%	100%
下船中	人数	26	210	208	205	168	163	147	187	207	225	182	142	2,070
	年齢計	491	4,625	5,609	6,561	6,205	6,848	6,898	9,701	11,831	13,910	12,149	10,374	95,202
	平均年齢	18.9	22.0	27.0	32.0	36.9	42.0	46.9	51.9	57.2	61.8	66.8	73.1	46.0
	比率	1.3%	10.1%	10.0%	9.9%	8.1%	7.9%	7.1%	9.0%	10.0%	10.9%	8.8%	6.9%	100%
合計	人数	84	756	754	710	597	616	625	652	772	767	592	383	7,308
	年齢計	1,580	16,721	20,381	22,710	22,123	25,826	29,371	33,914	44,061	47,488	39,583	27,898	331,656
	平均年齢	18.8	22.1	27.0	32.0	37.1	41.9	47.0	52.0	57.1	61.9	66.9	72.8	45.4
	比率	1.1%	10.3%	10.3%	9.7%	8.2%	8.4%	8.6%	8.9%	10.6%	10.5%	8.1%	5.2%	100%
女性船員(上記の内数)	5	26	15	9	2	2	0	5	1	0	0	2	67	
派遣船員(上記の内数)	3	37	33	26	22	26	28	33	45	42	40	36	371	

前年比+17名、平均年齢29.3歳、甲板職員22名(内、船長1名、一航5名)、甲板部員24名、機関職員13名(内、機長4名、一機3名)、機関部員7名、司厨員1名

前年比+18名、平均年齢55.7歳(甲板職員156名、甲板部員72名、機関職員89名、機関部員24名、司厨員30名)

(年齢未回答18名除外、内派遣船員分17名)



① 全船種平均年齢(乗・下船合計)は**45.4歳**(前年度45.6歳)で、0.2歳若返り。

② 要因として、30歳未満の若年船員がここ数年各社の積極的な新卒採用により増加し、60歳以上船員の占める割合も僅かに減少している。

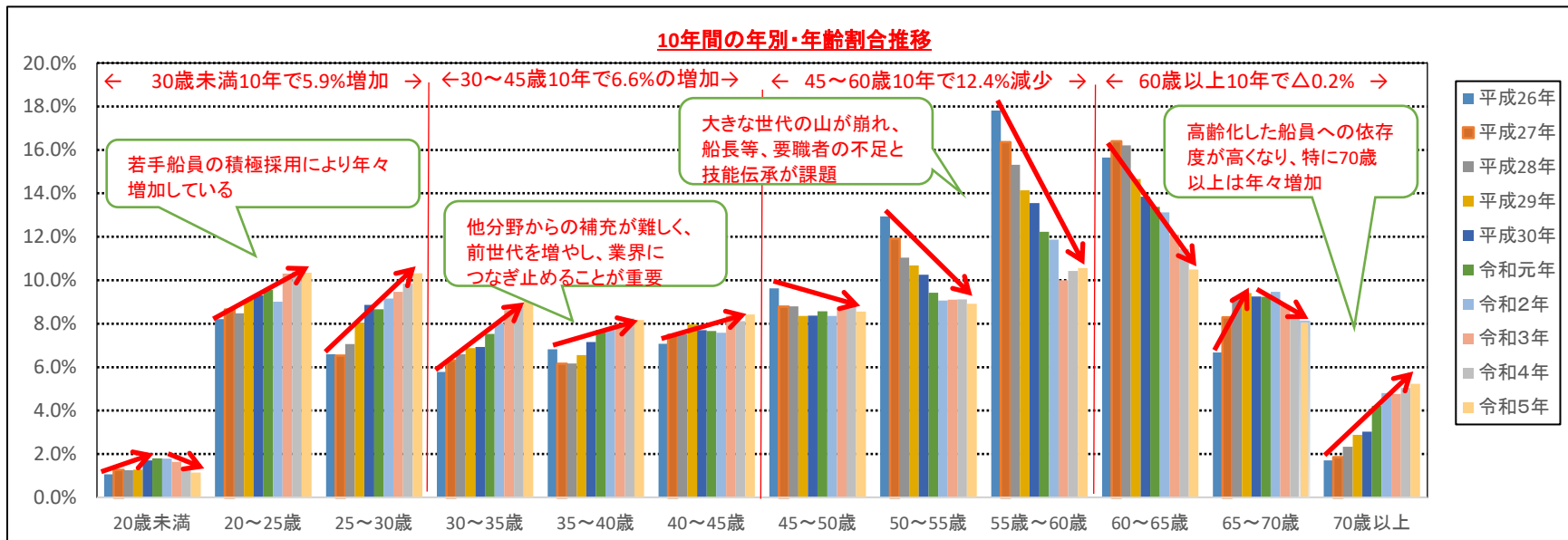
### 3. 年齢別船員数及び割合の推移(10年間)

#### (1) 年齢別船員数

	20歳未満	20～25歳	25～30歳	30～35歳	35～40歳	40～45歳	45～50歳	50～55歳	55歳～60歳	60～65歳	65～70歳	70歳以上	報告船員数
平成26年	75	575	462	405	478	495	674	906	1,247	1,095	467	120	6,999
平成27年	85	578	436	421	411	500	587	795	1,092	1,095	554	124	6,678
平成28年	95	643	535	500	468	570	667	837	1,161	1,229	699	177	7,581
平成29年	96	686	606	517	493	600	629	803	1,063	1,103	708	217	7,521
平成30年	127	693	660	516	533	574	623	763	1,009	1,031	689	226	7,444
令和元年	135	719	651	566	580	576	644	709	919	1,006	694	317	7,516
令和2年	128	645	655	574	554	543	598	649	849	939	677	344	7,155
令和3年	124	776	713	649	602	630	659	686	753	911	667	359	7,529
令和4年	104	780	738	660	617	608	667	684	782	858	619	378	7,495
令和5年	84	756	754	710	597	616	625	652	772	767	592	383	7,308
合計	1,053	6,851	6,210	5,518	5,333	5,712	6,373	7,484	9,647	10,034	6,366	2,645	73,226

#### (2) 年齢別船員割合

	20歳未満	20～25歳	25～30歳	30～35歳	35～40歳	40～45歳	45～50歳	50～55歳	55歳～60歳	60～65歳	65～70歳	70歳以上	合計
平成26年	1.1%	8.2%	6.6%	5.8%	6.8%	7.1%	9.6%	12.9%	17.8%	15.6%	6.7%	1.7%	100.0%
平成27年	1.3%	8.7%	6.5%	6.3%	6.2%	7.5%	8.8%	11.9%	16.4%	16.4%	8.3%	1.9%	100.0%
平成28年	1.3%	8.5%	7.1%	6.6%	6.2%	7.5%	8.8%	11.0%	15.3%	16.2%	9.2%	2.3%	100.0%
平成29年	1.3%	9.1%	8.1%	6.9%	6.6%	8.0%	8.4%	10.7%	14.1%	14.7%	9.4%	2.9%	100.0%
平成30年	1.7%	9.3%	8.9%	6.9%	7.2%	7.7%	8.4%	10.2%	13.6%	13.9%	9.3%	3.0%	100.0%
令和元年	1.8%	9.6%	8.7%	7.5%	7.7%	7.7%	8.6%	9.4%	12.2%	13.4%	9.2%	4.2%	100.0%
令和2年	1.8%	9.0%	9.2%	8.0%	7.7%	7.6%	8.4%	9.1%	11.9%	13.1%	9.5%	4.8%	100.0%
令和3年	1.6%	10.3%	9.5%	8.6%	8.0%	8.4%	8.8%	9.1%	10.0%	12.1%	8.9%	4.8%	100.0%
令和4年	1.4%	10.4%	9.8%	8.8%	8.2%	8.1%	8.9%	9.1%	10.4%	11.4%	8.3%	5.0%	100.0%
令和5年	1.1%	10.3%	10.3%	9.7%	8.2%	8.4%	8.6%	8.9%	10.6%	10.5%	8.1%	5.2%	100.0%



## 4. 総トン数・船種別平均年齢(乗船中船員)

## (1) 総トン数別平均年齢

	5年度				元年度 平均年齢	2年度 平均年齢	3年度 平均年齢	4年度 平均年齢	5年度 平均年齢
	隻数	船員数	平均乗員	年齢計					
200未満	116	406	3.5	19,480	50.1	49.9	49.3	48.6	48.0
500未満	282	1,442	5.1	69,725	49.6	49.3	48.2	47.8	48.4
750未満	141	934	6.6	44,849	48.8	49.9	48.5	48.1	48.0
1000未満	63	558	8.9	25,176	45.9	46.0	45.1	44.6	45.1
1600未満	13	126	9.7	4,951	41.7	40.8	39.5	39.0	39.3
3000未満	27	282	10.4	11,769	42.5	44.1	42.5	42.8	41.7
3000以上	126	1,490	11.8	60,504	42.2	41.7	41.1	41.5	40.6
合計	768	5,238	6.8	236,454	47.6	46.6	46.6	45.5	45.1

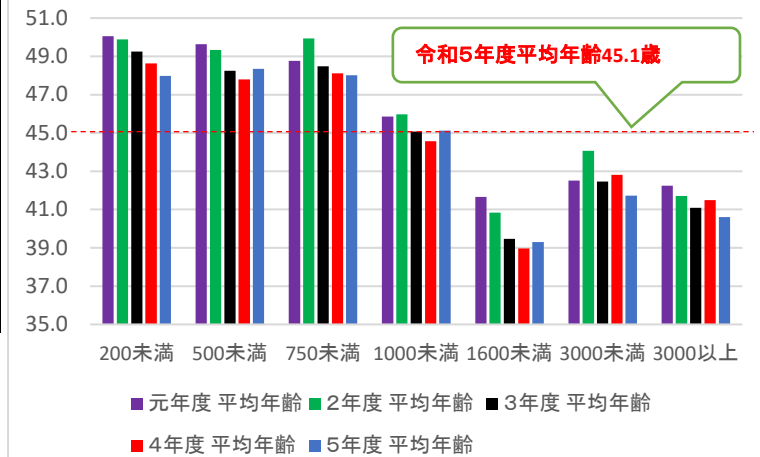
・本年度乗船中の平均年齢はの45.1歳(昨年45.3)であったが、船型別にみると、200GT未満船の48.0歳に対して、3,000GT以上船は40.6歳であり、小型船／大型船での平均年齢差は約7.4歳(昨年7.1歳)とやや広がる。

## (2) 船種別平均年齢(乗船中)

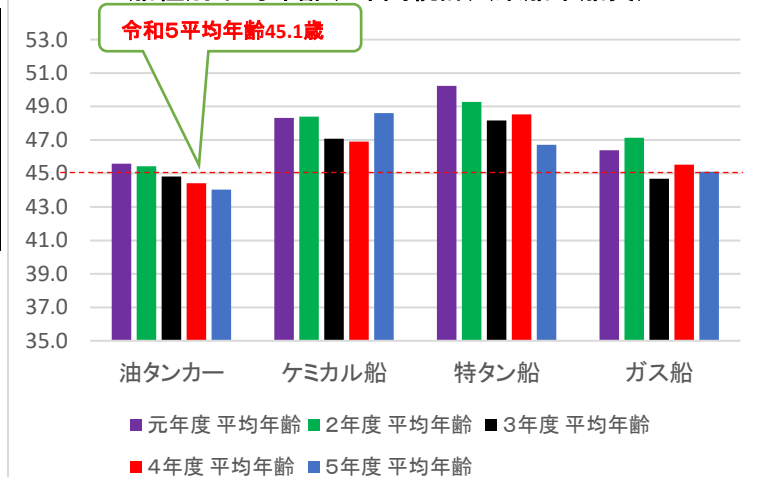
	5年度				元年度 平均年齢	2年度 平均年齢	3年度 平均年齢	4年度 平均年齢	5年度 平均年齢
	隻数	船員数	平均乗員	年齢計					
油タンカー	440	3,231	7.3	142,256	45.6	45.4	44.8	44.4	44.0
ケミカル船	141	799	5.7	38,841	48.3	48.4	47.1	46.9	48.6
特タン船	104	535	5.1	24,996	50.2	49.3	48.2	48.5	46.7
ガス船	83	673	8.1	30,361	46.4	47.1	44.7	45.5	45.1
合計	768	5,238	6.8	236,454	46.6	46.6	45.5	45.3	45.1

・令和5年度で平均年齢を下回るのは油タンカー(44.0歳)のみ。  
・全体的に少しずつ若返っている傾向。

総トン数別平均年齢(5年間統計)(乗船中船員)



船種別平均年齢(5年間統計)(乗船中船員)





(年齢構成:船種別詳細①)

		20歳未満	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～55	55～60	60～65	65～70	70以上	計
白	200未満	0	1	11	7	2	9	8	10	13	9	9	12	91
	～500未満	0	4	11	16	10	9	17	11	19	16	13	12	138
	～750未満	2	17	31	30	23	34	22	25	32	31	27	13	287
	～1000未満	0	21	21	16	23	16	17	13	12	15	20	5	179
	～1600未満	0	2	0	3	0	1	2	1	1	1	0	0	11
	～3000未満	5	26	14	16	14	15	18	16	20	13	14	8	179
	3000以上	26	194	126	107	90	81	77	73	88	80	58	17	1,017
	人数	33	265	214	195	162	165	161	149	185	165	141	67	1,902
	年齢計	619	5,833	5,832	6,230	5,988	6,927	7,574	7,756	10,556	10,189	9,451	4,862	81,817
平均	18.8	22.0	27.3	31.9	37.0	42.0	47.0	52.1	57.1	61.8	67.0	72.6	43.0	
黒	200未満	0	9	20	37	25	26	22	18	32	18	12	16	235
	～500未満	1	17	46	39	28	50	39	44	41	41	29	29	404
	～750未満	0	2	6	1	3	5	3	6	5	8	4	7	50
	～1000未満	0	13	23	20	11	15	22	17	24	18	24	13	200
	～1600未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	～3000未満	0	3	3	4	0	2	5	2	5	4	2	0	30
	3000以上	7	69	46	42	36	28	33	42	46	31	24	6	410
	人数	8	113	144	143	103	126	124	129	153	120	95	71	1,329
	年齢計	150	2,499	3,884	4,574	3,826	5,262	5,856	6,715	8,726	7,437	6,342	5,168	60,439
平均	18.8	22.1	27.0	32.0	37.1	41.8	47.2	52.1	57.0	62.0	66.8	72.8	45.5	
ケミカル	200未満	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	1	4
	～500未満	1	30	47	36	47	48	50	50	73	77	61	41	561
	～750未満	1	16	18	19	16	18	25	18	23	29	18	13	214
	～1000未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	～1600未満	2	4	6	1	2	2	0	2	0	1	0	0	20
	～3000未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3000以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人数	4	50	72	56	65	69	76	70	96	107	79	55	799
	年齢計	75	1,110	1,945	1,787	2,426	2,901	3,557	3,644	5,460	6,639	5,290	4,007	38,841
平均	18.8	22.2	27.0	31.9	37.3	42.0	46.8	52.1	56.9	62.0	67.0	72.9	48.6	

(年齢構成:船種別詳細②)

		20歳未満	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50	50～55	55～60	60～65	65～70	70以上	計
特タン	200未満	0	3	6	8	7	5	7	9	6	7	7	11	76
	～500未満	4	22	25	28	24	26	35	29	29	30	24	14	290
	～750未満	1	6	15	11	7	15	14	19	14	22	10	0	134
	～1000未満	0	4	3	2	1	3	4	2	5	1	0	0	25
	～1600未満	0	1	3	0	1	0	0	0	2	1	2	0	10
	～3000未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3000以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人数	5	36	52	49	40	49	60	59	56	61	43	25	535
	年齢計	93	816	1,395	1,583	1,494	2,053	2,809	3,074	3,186	3,799	2,883	1,811	24,996
	平均	18.6	22.7	26.8	32.3	37.4	41.9	46.8	52.1	56.9	62.3	67.0	72.4	46.7
ガス	200未満	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	～500未満	0	0	5	2	3	3	8	5	7	9	5	2	49
	～750未満	3	16	10	16	23	15	24	23	35	40	33	11	249
	～1000未満	1	20	17	16	14	11	11	16	16	16	9	7	154
	～1600未満	1	17	14	7	9	7	4	3	6	10	5	2	85
	～3000未満	2	20	10	12	6	4	5	5	6	3	0	0	73
	3000以上	1	9	8	9	4	4	5	6	5	11	0	1	63
	人数	8	82	64	62	59	44	57	58	75	89	52	23	673
	年齢計	152	1,838	1,716	1,975	2,184	1,835	2,677	3,024	4,302	5,514	3,468	1,676	30,361
	平均	19.0	22.4	26.8	31.9	37.0	41.7	47.0	52.1	57.4	62.0	66.7	72.9	45.1
合計	200未満	0	13	38	52	34	41	38	37	51	34	28	40	406
	～500未満	6	73	134	121	112	136	149	139	169	173	132	98	1,442
	～750未満	7	57	80	77	72	87	88	91	109	130	92	44	934
	～1000未満	1	58	64	54	49	45	54	48	57	50	53	25	558
	～1600未満	3	24	23	11	12	10	6	6	9	13	7	2	126
	～3000未満	7	49	27	32	20	21	28	23	31	20	16	8	282
	3000以上	34	272	180	158	130	113	115	121	139	122	82	24	1,490
	人数	58	546	546	505	429	453	478	465	565	542	410	241	5,238
	年齢計	1,089	12,096	14,772	16,149	15,918	18,978	22,473	24,213	32,230	33,578	27,434	17,524	236,454
	平均	18.8	22.2	27.1	32.0	37.1	41.9	47.0	52.1	57.0	62.0	66.9	72.7	45.1

5. 職種別平均年齢(乗・下船船員の合計)

(1) 職種別

職種	船員数	年齢計	平均年齢
船長	1,068	58,820	55.1
一航士	953	42,883	45.0
次席一航士	216	9,700	44.9
二航士	843	36,948	43.8
三航士	269	9,448	35.1
小計	3,349	157,799	47.1
甲板長	180	9,154	50.9
甲板手	515	19,211	37.3
甲板員	475	15,956	33.6
見習い	9	216	24.0
司厨員	429	22,657	52.8
小計	1,608	67,194	41.8
機関長	1,047	55,227	52.7
一機士	693	31,067	44.8
次席一機士	66	2,874	43.5
二機士	213	7,041	33.1
三機士	24	716	29.8
小計	2,043	96,925	47.4
操機長	28	1,311	46.8
操機手	41	985	24.0
機関員	227	7,191	31.7
見習い	12	251	20.9
小計	308	9,738	31.6
合計	7,308	331,656	45.4

(職種別平均年齢の前年対比)

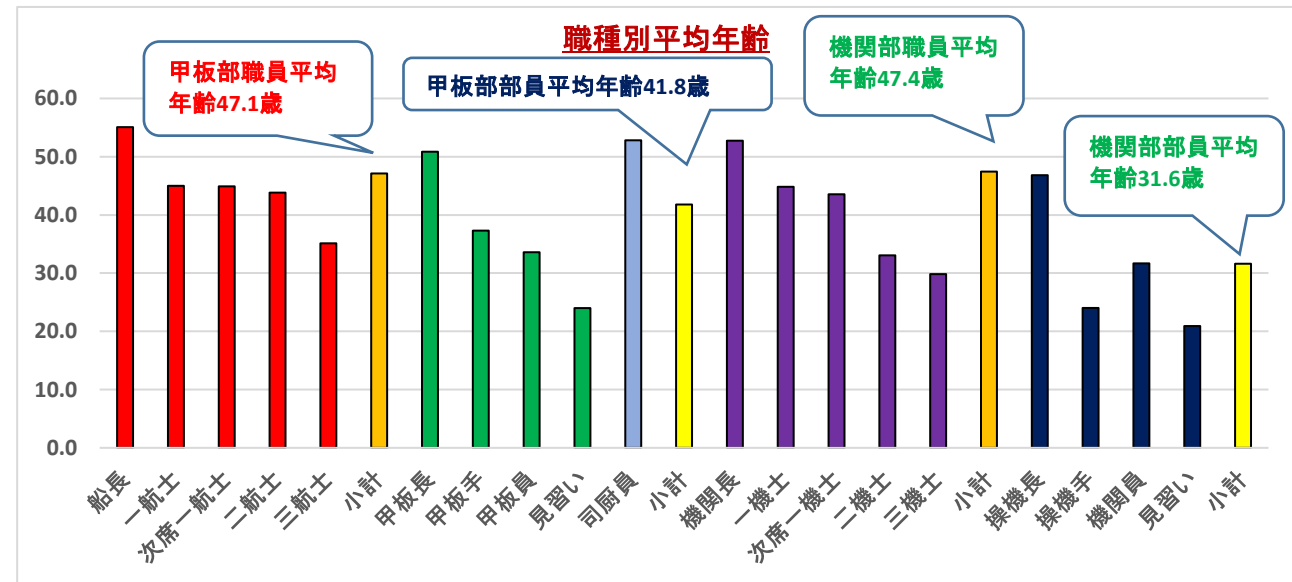
職種	R5年度	R4年度	対比
甲板部職員	47.1	47.4	-0.3
部員	41.8	41.8	-0.0
機関部職員	47.4	47.8	-0.4
部員	31.6	31.2	0.4

(2) 航海/機関別

(註)本表中、司厨員は甲板部員に参入

R5年度		船員数	年齢計	平均年齢
甲板部	職員	3,349	157,799	47.1
	部員	1,608	67,194	41.8
	小計	4,957	224,993	45.4
機関部	職員	2,043	96,925	47.4
	部員	308	9,738	31.6
	小計	2,351	106,663	45.4
合計		7,308	331,656	45.4

R4年度(参考)		船員数	年齢計	平均年齢
甲板部	職員	3,380	160,178	47.4
	部員	1,660	69,368	41.8
	小計	5,040	229,546	45.5
機関部	職員	2,045	97,766	47.8
	部員	337	10,510	31.2
	小計	2,382	108,276	45.5
合計		7,422	337,822	45.5



・令和5年度の職種毎の平均年齢は上表のとおりである。

・前年度平均年齢と比較すると、甲板部職員は△0.3歳、甲板部部員は±0歳、機関部職員は△0.4歳、機関部部員は+△0.4歳。

6. 入社歴及び前職

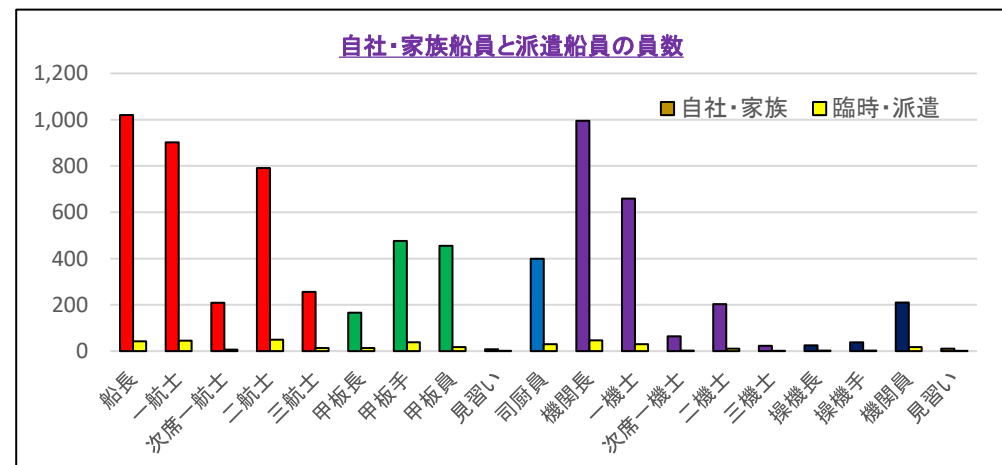
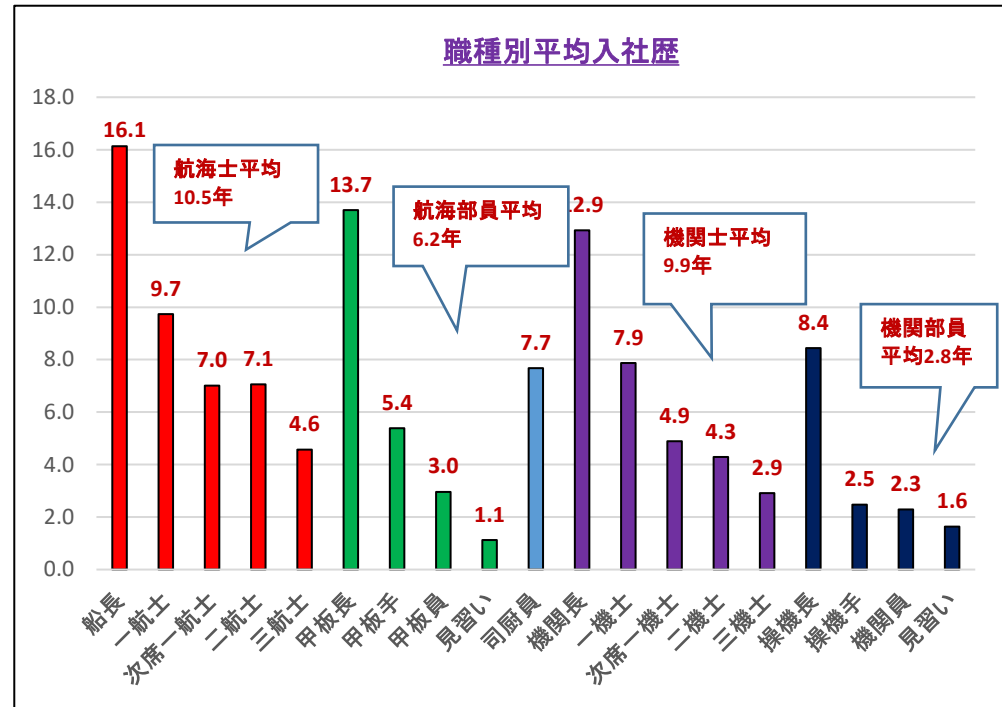
(1) 職種別船員数及び入社歴と雇用内訳(乗・下船合計)

	船員数	内訳 (*1)			平均入社歴
		自社・家族	臨時・派遣	入社歴計	
船長	1,068	1,020	43	16,456	16.1
一航士	953	902	45	8,781	9.7
次席一航士	216	209	6	1,465	7.0
二航士	843	791	49	5,583	7.1
三航士	269	256	13	1,170	4.6
<b>小計</b>	<b>3,349</b>	<b>3,178</b>	<b>156</b>	<b>33,455</b>	<b>10.5</b>
甲板長	180	166	14	2,274	13.7
甲板手	515	476	39	2,564	5.4
甲板員	475	455	18	1,346	3.0
見習い	9	8	1	9	1.1
司厨員	429	399	30	3,063	7.7
<b>小計</b>	<b>1,608</b>	<b>1,504</b>	<b>102</b>	<b>9,256</b>	<b>6.2</b>
機関長	1,047	995	46	12,864	12.9
一機士	693	659	30	5,187	7.9
次席一機士	66	64	2	313	4.9
二機士	213	203	10	871	4.3
三機士	24	23	1	67	2.9
<b>小計</b>	<b>2,043</b>	<b>1,944</b>	<b>89</b>	<b>19,302</b>	<b>9.9</b>
操機長	28	25	3	211	8.4
操機手	41	38	3	94	2.5
機関員	227	210	17	481	2.3
見習い	12	11	1	18	1.6
<b>小計</b>	<b>308</b>	<b>284</b>	<b>24</b>	<b>804</b>	<b>2.8</b>
<b>合計</b>	<b>7,308</b>	<b>6,910</b>	<b>371</b>	<b>62,817</b>	<b>9.1</b>

(\*2)

(\*1): 平均入社歴は自社・家族船員のみを対象とした。

・自社・家族船員と臨時・派遣船員の比率は、**自社・家族94.5%**(前年度95.1%)、**臨時・派遣5.1%**(前年度4.9%)で、臨時・派遣船員割合が若干増加。



## (2)職種別船員の前職(全船種合計)

職種	専門新卒	一般新卒	タンカー船	ケミカル船	ガス船	特タン	貨物船	外航船員	漁船	その他	未記入	計
船長	103	48	399	172	32	31	44	11	94	111	23	1,068
一航士	139	28	302	135	49	33	61	2	54	131	19	953
次席一航士	22	10	72	36	9	7	22	1	16	20	1	216
二航士	171	23	220	99	26	29	72	3	53	125	22	843
三航士	102	6	74	8	3	1	20	4	5	43	3	269
<b>小計</b>	<b>537</b>	<b>115</b>	<b>1,067</b>	<b>450</b>	<b>119</b>	<b>101</b>	<b>219</b>	<b>21</b>	<b>222</b>	<b>430</b>	<b>68</b>	<b>3,349</b>
<b>割合</b>	<b>16.0%</b>	<b>3.4%</b>	<b>31.9%</b>	<b>13.4%</b>	<b>3.6%</b>	<b>3.0%</b>	<b>6.5%</b>	<b>0.6%</b>	<b>6.6%</b>	<b>12.8%</b>	<b>2.0%</b>	<b>100%</b>
甲板長	19	6	52	17	1	1	14	1	26	34	9	180
甲板手	187	13	98	7	5	1	24	1	35	131	13	515
甲板員	118	27	68	8	13	0	21	1	20	190	9	475
見習い	4	1	0	0	0	0	1	0	0	3	0	9
司厨員	11	6	110	17	11	0	23	3	5	228	15	429
<b>小計</b>	<b>339</b>	<b>53</b>	<b>328</b>	<b>49</b>	<b>30</b>	<b>2</b>	<b>83</b>	<b>6</b>	<b>86</b>	<b>586</b>	<b>46</b>	<b>1,608</b>
<b>割合</b>	<b>21.1%</b>	<b>3.3%</b>	<b>20.4%</b>	<b>3.0%</b>	<b>1.9%</b>	<b>0.1%</b>	<b>5.2%</b>	<b>0.4%</b>	<b>5.3%</b>	<b>36.4%</b>	<b>2.9%</b>	<b>100.0%</b>
機関長	87	19	359	150	34	36	72	17	98	148	27	1,047
一機士	134	9	192	75	25	18	52	5	54	109	20	693
次席一機士	5	2	16	10	3	2	3	0	7	16	2	66
二機士	91	7	34	6	3	2	8	2	6	49	5	213
三機士	14	0	2	0	0	0	0	0	0	8	0	24
<b>小計</b>	<b>331</b>	<b>37</b>	<b>603</b>	<b>241</b>	<b>65</b>	<b>58</b>	<b>135</b>	<b>24</b>	<b>165</b>	<b>330</b>	<b>54</b>	<b>2,043</b>
<b>割合</b>	<b>16.2%</b>	<b>1.8%</b>	<b>29.5%</b>	<b>11.8%</b>	<b>3.2%</b>	<b>2.8%</b>	<b>6.6%</b>	<b>1.2%</b>	<b>8.1%</b>	<b>16.2%</b>	<b>16.4%</b>	<b>100%</b>
操機長	3	0	5	3	0	2	6	0	1	7	1	28
操機手	25	1	3	2	0	0	1	1	0	8	0	41
機関員	58	12	24	10	0	1	10	0	7	98	7	227
見習い	6	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	12
<b>小計</b>	<b>92</b>	<b>15</b>	<b>32</b>	<b>15</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>17</b>	<b>1</b>	<b>8</b>	<b>115</b>	<b>10</b>	<b>308</b>
<b>総計</b>	<b>1,299</b>	<b>220</b>	<b>2,030</b>	<b>755</b>	<b>214</b>	<b>164</b>	<b>454</b>	<b>52</b>	<b>481</b>	<b>1,461</b>	<b>178</b>	<b>7,308</b>
<b>割合</b>	<b>17.8%</b>	<b>3.0%</b>	<b>27.8%</b>	<b>10.3%</b>	<b>2.9%</b>	<b>2.2%</b>	<b>6.2%</b>	<b>0.7%</b>	<b>6.6%</b>	<b>20.0%</b>	<b>2.4%</b>	<b>100%</b>

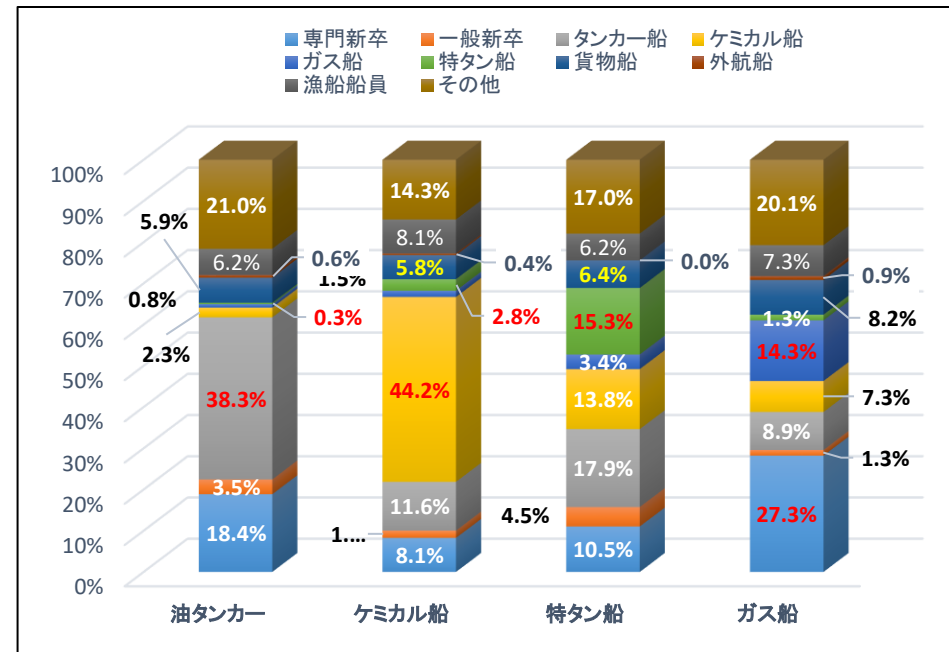
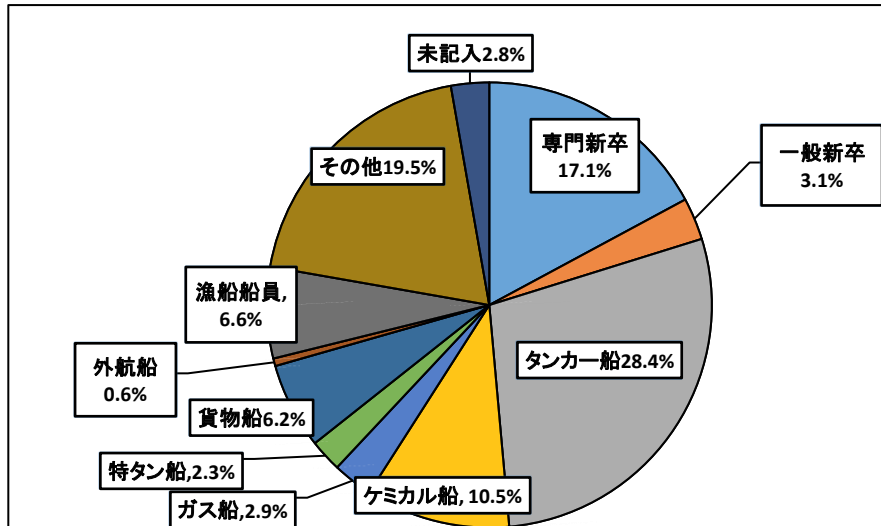
※前職は入社直前の職種を記載している。

※ 前職の上位は、タンカー経験者27.8%、その他20.0%、専門学校新卒者が17.8%、ケミカル船が10.3%、漁船が6.6%、貨物船が6.2%となっている。

(3) 船種別船員の前職(乗船中)

	専門新卒	一般新卒	タンカー船	ケミカル船	ガス船	特タン船	貨物船	外航船	漁船船員	その他	未記入	計
油タンカー	593	113	1,237	74	27	10	192	20	200	680	85	3,231
ケミカル船	65	14	93	353	12	22	46	3	65	114	12	799
特タン船	56	24	96	74	18	82	34	0	33	91	27	535
ガス船	184	9	60	49	96	9	55	6	49	135	21	673
合計	898	160	1,486	550	153	123	327	29	347	1,020	145	5,238
比率	17.1%	3.1%	28.4%	10.5%	2.9%	2.3%	6.2%	0.6%	6.6%	19.5%	2.8%	100%

	専門新卒	一般新卒	タンカー船	ケミカル船	ガス船	特タン船	貨物船	外航船	漁船船員	その他
油タンカー	18.4%	3.5%	38.3%	2.3%	0.8%	0.3%	5.9%	0.6%	6.2%	21.0%
ケミカル船	8.1%	1.8%	11.6%	44.2%	1.5%	2.8%	5.8%	0.4%	8.1%	14.3%
特タン船	10.5%	4.5%	17.9%	13.8%	3.4%	15.3%	6.4%	0.0%	6.2%	17.0%
ガス船	27.3%	1.3%	8.9%	7.3%	14.3%	1.3%	8.2%	0.9%	7.3%	20.1%



※全ての船種で、同じ船種に戻る割合が高くなる傾向。

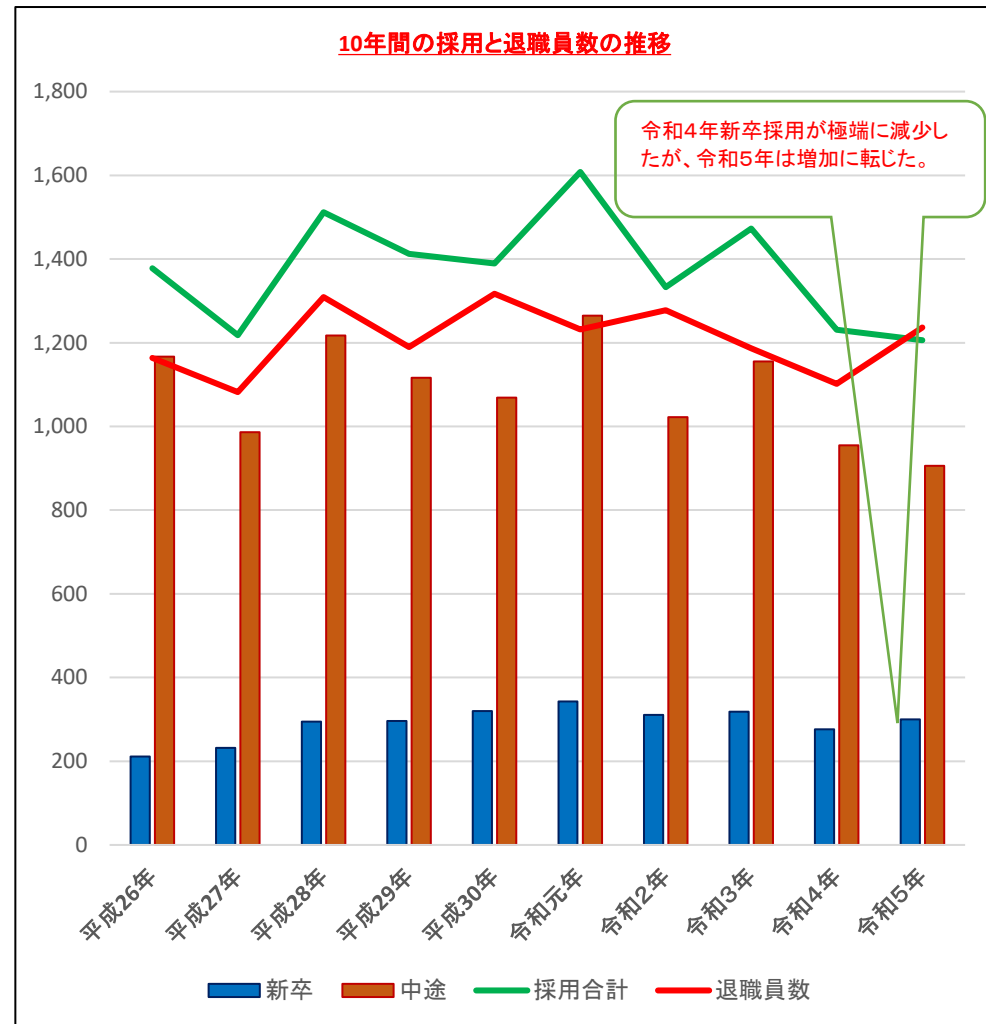
※ガス船は、前職が新卒である割合が最も高く、新卒者の定着率の良さが表れている。

## 7. 採用・退職関係

## (1) 過去10年間の採用及び退職船員統計表

	新卒	中途	採用合計	退職員数	採用員数 - 退職員数
平成26年	211	1,167	1,378	1,164	214
平成27年	232	986	1,218	1,082	136
平成28年	295	1,217	1,512	1,309	203
平成29年	296	1,116	1,412	1,190	222
平成30年	320	1,069	1,389	1,317	72
令和元年	343	1,265	1,608	1,232	376
令和2年	311	1,022	1,333	1,278	55
令和3年	318	1,155	1,473	1,187	286
令和4年	276	955	1,231	1,102	129
令和5年	300	906	1,206	1,236	-30
合計	2,902	10,858	13,760	12,097	1,663

(※) 令和4年度新卒採用数が前年比42名減少したが、令和5年は24名増加



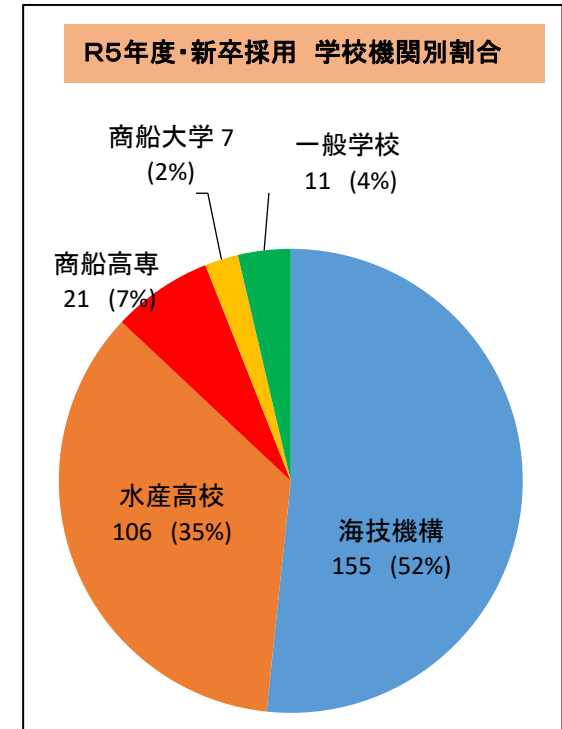
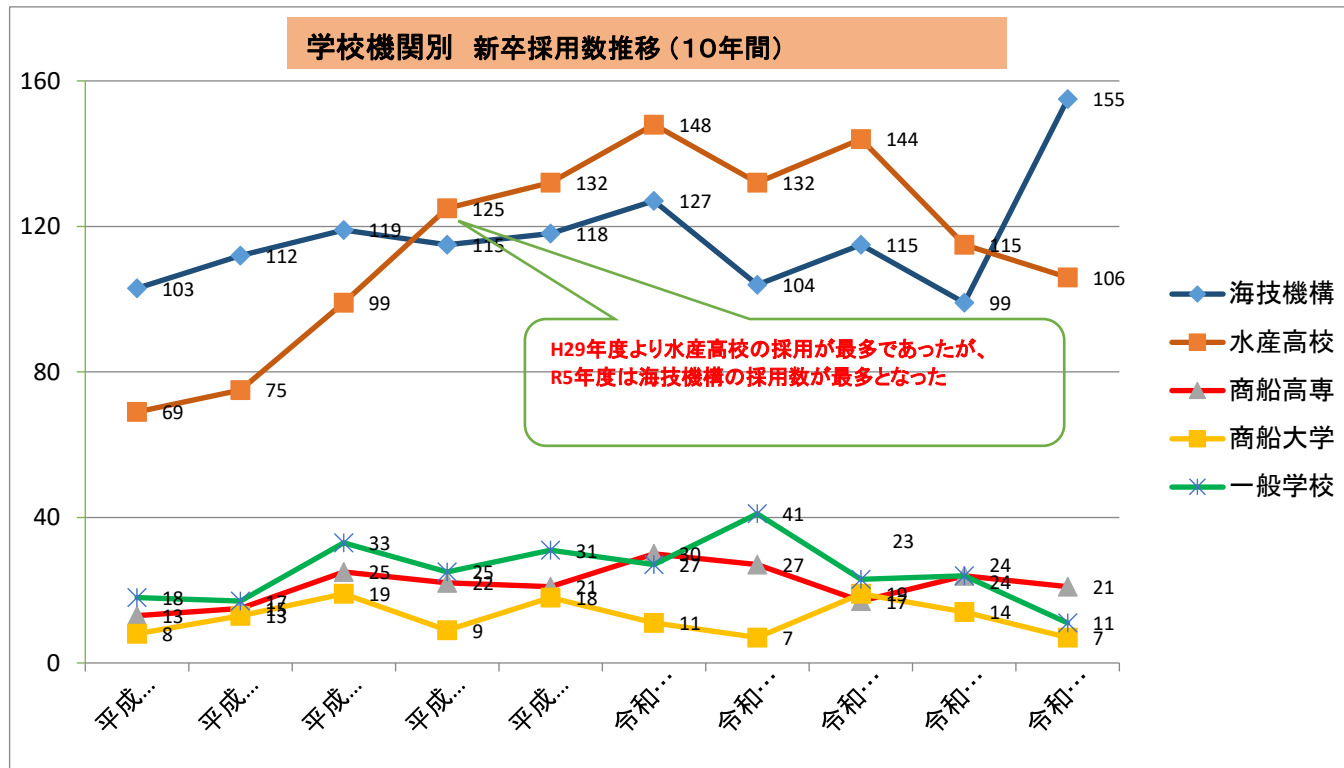
※採用人数13,760名の内、中途採用者は10,858名と全体の78.9%を占めている。

(2)新卒者採用学校別割合及び中途採用者内訳(10年間)

	新卒						中途			合計
	海技機構	水産高校	商船高専	商船大学	一般学校	小計	元船員	船員以外	小計	
平成26年	103	69	13	8	18	211	1,008	159	1,167	1,378
平成27年	112	75	15	13	17	232	830	156	986	1,218
平成28年	119	99	25	19	33	295	985	232	1,217	1,512
平成29年	115	125	22	9	25	296	884	232	1,116	1,412
平成30年	118	132	21	18	31	320	872	197	1,069	1,389
令和元年	127	148	30	11	27	343	1,024	241	1,265	1,608
令和2年	104	132	27	7	41	311	833	189	1,022	1,333
令和3年	115	144	17	19	23	318	931	224	1,155	1,473
令和4年	99	115	24	14	24	276	781	174	955	1,231
令和5年	155	106	21	7	11	300	729	177	906	1,206
合計	1,167	1,145	215	125	250	2,902	8,877	1,981	10,858	13,760
	40.2%	39.5%	7.4%	4.3%	8.6%	100.0%	81.8%	18.2%	100.0%	

(※1)教育機関別の新卒採用数は、10年間合計では、海技学校・短大と水産高校が各々40%前後、本年は7年振りに海技機構の採用数が最多となった。

(※2)水産高校採用数106名の内訳  
専攻科50名、本科56名 (R5年)



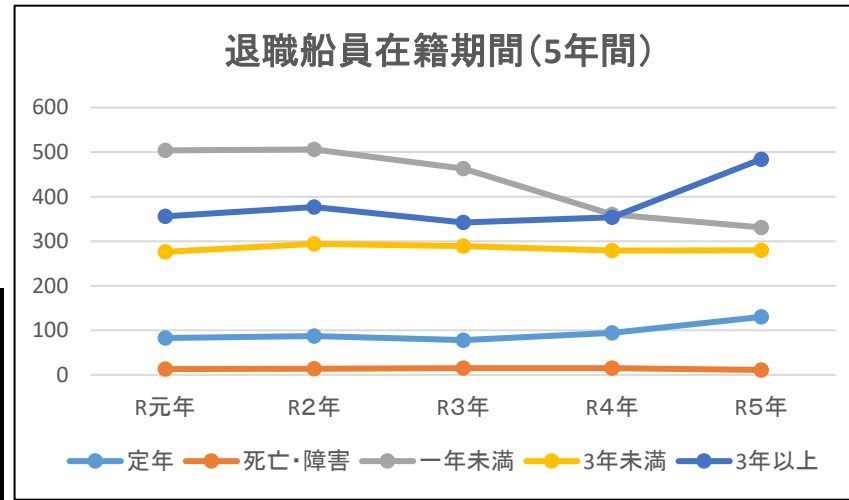


(3) 令和5年度退職状況

		職・部員合計				
		甲板	機関	その他	計	比率
定年		66	49	15	130	10.5%
死亡・障害		6	2	3	11	0.9%
在社期間	一年未満	191	109	31	331	26.8%
	3年未満	170	80	30	280	22.7%
	3年以上	272	167	45	484	39.2%
計		705	407	124	1,236	100.0%

(4) 令和元～令和5年在籍期間対比(5年間)

	職員・部員計					計	%
	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年		
定年	83	87	78	94	130	472	7.8%
死亡・障害	13	14	15	15	11	68	1.1%
一年未満	504	506	463	360	331	2,164	35.9%
3年未満	276	294	289	279	280	1,418	23.5%
3年以上	356	377	342	354	484	1,913	31.7%
計	1,232	1,278	1,187	1,102	1,236	6,035	100.0%



※ 離職数は5年間で減少傾向

(5) 新卒採用者の離職率

採用		離職時期・数			
時期	数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	計
1年前	278	67	—	—	67
3年前	302	75	84	—	159
5年前	268	61	68	45	174
計	848	203	152	45	400
離職率 (1)		24%	27%	17%	67%
離職率 (2)		51%		17%	67%

※ 新卒3年未満で約半数(51%)が離職(昨年調査48%)

※ 新卒5年未満で3名中2名(67%)が離職(昨年調査63%)

※ 昨年との比較でも新卒者の離職率は、改善されていない。

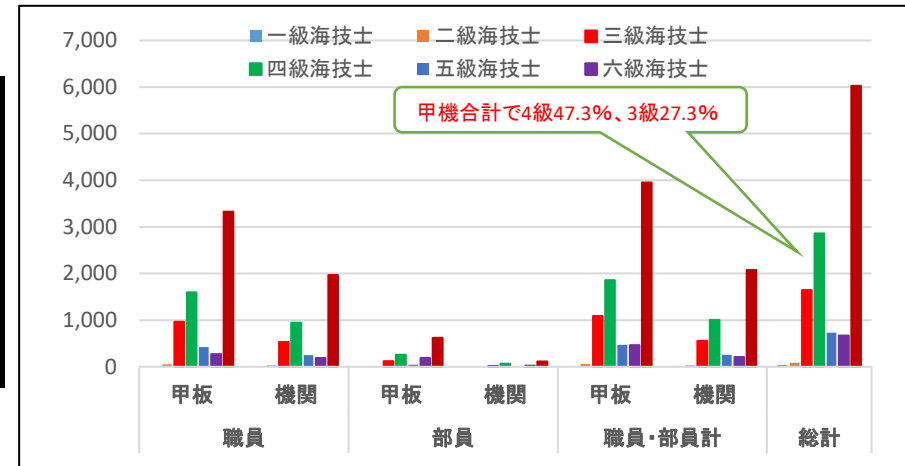
8. 海技免状保有状況

①甲・機別保有者数

	職員		部員		職員・部員計		総計	比率
	甲板	機関	甲板	機関	甲板	機関		
一級海技士	17	19	2	1	19	20	39	0.6%
二級海技士	51	29	5	2	56	31	87	1.4%
三級海技士	967	535	122	20	1,089	555	1,644	27.3%
四級海技士	1,596	942	259	64	1,855	1,006	2,861	47.4%
五級海技士	426	254	43	7	469	261	730	12.1%
六級海技士	270	186	192	21	462	207	669	11.1%
計	3,327	1,965	623	115	3,950	2,080	6,030	100.0%

※甲板部・機関部とも4級、3級海技士が主流

※6級海技士の部員の所有状況は甲板192名に対し機関21名と少ない。



②年齢別保有数

イ)航海士

	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60以上	計
一級海技士	0	0	3	2	4	10	19
二級海技士	0	7	9	14	7	19	56
三級海技士	0	266	229	172	218	224	1,109
四級海技士	11	430	344	350	360	391	1,886
五級海技士	0	35	44	74	117	209	479
六級海技士	5	78	93	88	95	116	475
計	16	816	722	700	801	969	4,024

ロ)機関士

	20歳未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60以上	計
一級海技士	0	1	0	1	4	16	22
二級海技士	0	1	9	3	6	12	31
三級海技士	0	118	112	86	105	139	560
四級海技士	12	214	189	157	195	255	1,022
五級海技士	0	19	13	41	57	134	264
六級海技士	2	42	61	54	38	16	213
計	14	395	384	342	405	572	2,112

9. 船舶料理士免許保有状況

	所有	未所有	司厨員計	所有割合
乗船中	168	72	240	70.0%
下船中	100	23	123	81.3%
計	268	95	363	73.8%

10. STCW基本訓練受講状況・予定 (新規調査)

受講時期								
1年以内受講 (又は済み)	2年以内	3年以内	4年以内	5年以内	6年以内	対象外	未記入	計
1,038	1,597	909	773	635	394	506	1,544	7,396
14%	22%	12%	10%	9%	5%	7%	21%	100%

※ 本調査結果では、2年以内(2024/10~2025/10頃)の受講者数が最も多い(1,597名、22%)

## 11. 船員不足の考察

## ① 船型別隻数/乗船中船員数(有効回答数)

年度	200GT未満			500GT未満			750GT未満			1000GT未満			1600GT未満			3000GT未満			3000GT以上			合計		
	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数	隻数	員数	平均員数
元	168	577	3.4	271	1,427	5.3	146	1,013	6.9	65	582	9.0	13	133	10.2	33	353	10.7	118	1,364	11.6	814	5,449	6.7
2	135	474	3.5	252	1,333	5.3	150	1,002	6.7	63	570	9.0	14	141	10.1	31	336	10.8	115	1,365	11.9	760	5,221	6.9
3	114	394	3.5	266	1,403	5.3	149	1,008	6.8	59	523	8.9	15	143	9.5	34	369	10.9	121	1,424	11.8	758	5,264	6.9
4	112	381	3.4	280	1,405	5.0	155	1,059	6.8	60	537	9.0	14	136	9.7	27	288	10.7	127	1,478	11.6	775	5,284	6.8
5	116	406	3.5	282	1,442	5.1	141	934	6.6	63	558	8.9	13	126	9.7	27	282	10.4	126	1,490	11.8	768	5,238	6.8
計	645	2,232	3.5	1,351	7,010	5.2	741	5,016	6.8	310	2,770	8.9	69	679	9.8	152	1,628	10.7	607	7,121	11.7	3,875	26,456	6.8

※ 令和5年度の平均乗員数は、5年間の平均よりも下回った船型が4船型であった(朱色囲み)。

## ② 予備員率

年度	乗船中	下船中	計	予備員率
元	5,449	2,068	7,517	1.38
2	5,221	1,934	7,155	1.37
3	5,264	2,187	7,451	1.42
4	5,284	2,108	7,392	1.40
5	5,238	2,070	7,308	1.40
計	26,456	10,367	36,823	1.39

※予備員率は5年間平均で1.39、5年度は1.40で、平均を上回る。

## ③ 臨時・派遣船員数と比率

年度	合計	自社・家族	臨時・派遣	臨時・派遣
	船員数	船員数	船員数	比率
元	7,517	7,142	375	5.0%
2	7,126	6,752	374	5.2%
3	7,424	7,060	364	4.9%
4	7,394	7,035	359	4.9%
5	7,308	6,937	371	5.1%
計	36,769	34,926	1,843	5.0%

※臨時・派遣船員割合は5年間平均で5.0%、5年度は5.1%で、若干増加。

## ④ 臨時・派遣船員の職種別内訳

年度	職員(甲)	部員(甲)	職員(機)	部員(機)	計	職員(甲機)割合
元	145	113	103	14	375	66.1%
2	147	112	93	22	374	64.2%
3	144	113	87	20	364	63.5%
4	146	107	90	16	359	65.7%
5	156	102	89	24	371	66.0%
計	738	547	462	96	1,843	65.1%
割合	40.0%	29.7%	25.1%	5.2%	100.0%	

※臨時・派遣船員は6割以上が職員として就労、機関に限れば約8割以上。

## (考察)

## 1. 実乗員数と予備員率からの考察

一昨年来から船員法の改正により労働時間管理の厳格化が行われているが、**実乗員数や予備員率に大きな変動はなかった**。これは、荷動きが低調であったため、船員の労働時間管理や休暇が比較的回し易かった反面、船員不足の状況は変わらず続いているため、中型船以上での教育による予備船員の乗船が思ったより伸びなかったことも要因と推測される。

## 2. 臨時・派遣船員

令和5年度は、**371名**の船員が派遣され、特に、**甲・機職員への派遣が6割以上**を占める例年同様の傾向に変化はない。ただし、**派遣船員も供給が不足**しているとの声は漏れ伝わって来ている。

## 3. 若手船員の確保

昨年の調査で、新卒採用が5年振りに300名を割り(276名)採用数の陰りが見られたが、**本年300名まで回復**したことは良い傾向であった。また、**女子船員の数も昨年の50名から67名に増加**したことも、各社の取組が反映された結果と考慮される。一方、**新卒者の離職率**について数値上は改善の傾向が見られず、**定着率の向上**は引き続き大きな課題として残された。

## 4. 船員不足への対応

船員の働き方改革により**労働時間の管理や罰則規程の法制化**、さらに**健康確保への配慮**も強化されたことから、**船員の働く時間と働き方の見直し**、**船の運航面の変更**も考慮せざるを得ない状況が続いている。今後も荷物と船舶の需給バランスの問題はあるが、**少子高齢化の背景と陸上産業の労働力不足**が重なり、**船員需給が緩んで来る**ことは想像できず、**船員不足がより顕著に表れる**ことが危惧される。今後1～2年は、**船員問題も新たな局面への対応が必要**と考察される。

## 12. 船員対策委員会からの提言

- (1) 将来的に内航タンカー船員が選ばれる職業となるためには、労働時間遵守と健康確保を前提にした仕事のあり方、休日の付与等について、船主、オペレータ、荷主がコンプライアンスを前提にした協力を行い、「内航タンカー船員の働き方改革」を実現しなければならない。  
このためには、国土交通省が設置した「安定・効率輸送協議会」及び「各製品別部会」での荷主対話の機会を最大限に活用すると共に、個社においては、荷主とオペレーター、オペレーターとオーナーが協議のもと、船員問題への前向きな取り組みが必要となる。
- (2) 特に、小型船の船員確保対策は、業界団体のバックアップと共に、オーナー、オペレーターの協力が必要である。
- (3) ベテラン船員の退職と新人船員の早期登用のバランスを取りつつ、技術の伝承を早急に行う必要がある。
- (4) 新卒者の積極的な採用と併行して、若年船員の早期離職の現状を踏まえ、退職防止と業界内つなぎとめ策の検討が必要である。
- (5) 女性船員の確保・活用をさらに進める必要がある。
- (6) 小型船等において高齢船員への依存傾向が続いている中、安全確保のため労務の見直しや軽減策に配慮する必要がある。
- (7) SO<sub>x</sub>規制による新燃料油の使用や暫定措置事業終了による建造方式の変更、中長期的なカーボンニュートラルへの対応等、業界環境も大きな変わり目を迎えている中、船舶の技術革新を今以上に進める必要がある。

以上